家庭教育学級や講座を開く際には企画書を書き、その目的や内容等を明記することと思いますが、それをチラシ等にすべて書く必要はありません。あくまでも、チラシは人を集めるための手段ですから、**「楽しそう」「役に立ちそう」「仲間ができそう」**と思ってもらうことが肝心です。

**⇒詳しくは、「Ⅰ成功例から学ぶ」を読みましょう。**

　専門家だからといって、必ずしも参加者にとって良い講師になるとは限りません。**慎重に選び、入念な打ち合わせ**をすることが大切です。

講師を選ぶポイントとしては、特に、以下の３点に留意しましょう。

①自分だけが話すのではなく、参加者の話を引き出そうとしているか

②講座後も、資料等を提供するなど、その後の援助を惜しまないか

③可能な限り、実際に講師の話を聞きに行き、分かりやすかったか

　ワークショップ形式は、アイウエオの方法と言われます。**「明るい・良い加減な・うれしい・笑顔の・おもしろい」**のアイウエオです。

**「講座活性化プログラム」**は、まさにこのワークショップ形式で構成されていますので、ぜひアイウエオの雰囲気を忘れず進行しましょう。目的や参加者の状況に合わせた場づくりにも気を配りましょう。

　これまでなかなか人が集まらなかったのに、人が参加するようになってくると、主催者側としてはうれしい気持ちになるものです。

しかし、そこで終わりではありません。参加した人の中から、主催者側になる人を見つけ、**企画・運営に携わってくれる人を育て、親同士がつながる循環を作る**ことが最も大切です。

**⇒詳しくは、「Ⅲ人が集まる循環を作る」を読みましょう。**

アンケートは、次回の講座等に生かしてこそ意味があります。親にとって価値のある講座や学級だったのか、企画の目的は達成されたのかを冷静に評価し、何が課題なのかを見極める必要があります。また、興味のそそられるタイトルを選ばせる項目なども、次回の広報を考える上で役立ちます。**⇒「Ⅱ失敗例から学ぶ」のＰＤＣＡを参考にしましょう。**

　進行役になる人は、参加する親よりも子育て経験が豊富であることが多いため、いつの間にか助言者としてふるまっていることがあります。

　しかし、主体は、あくまでも参加した親です。進行役は、「…という考えについて、どう思いますか？」など、**親同士の考えをつなげたり、広げたりする役に徹しましょう。**

参加した親が心を開いて、学び合い、振り返りなどで深めることができれば、満足度も効果も高まります。講座活性化プログラムは、**「ひらく」「学び合う」「深める」**をキーワードにしたプログラムをそれぞれ用意していますので、ぜひ目的や状況に合わせて活用しましょう。

しかし、だからこそ、私的な話題も出てくることが多くなります。進行役として、必ず**「私的な話はここだけに置いて帰りましょう」**などの声かけをすることで、気持ち良く帰ってもらえるようにしましょう。